

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	NPO法人水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホームゆうあい寺田		
所在地	城陽市寺田乾出北		
自己評価作成日	2023.12.05	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JikkyosyoCd=2692800044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館」1階
訪問調査日	令和6年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切に家族の役割、職員の役割を理解した上で入居者様に合ったサービスを提供をしています。入居者様の残存機能の維持・向上を大切に力を持てる力を最大限に引き出し最後まで維持することを目標にケアを行なっている。
また、ご家族やご本人の思いを受け止め、その人らしい最期の看取りまで支援しています。
(ご家族・主治医・看護師・ケアマネ・調理職員等と常に話し合いを持ち、ケアの方向性を決めて一日一日を楽しく笑顔で生活を送るように支援をしています。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームゆうあい寺田(定員9名)は、地域密着型のデイサービス、小規模多機能居宅介護が併設され、寺田ケアセンターとして職員は一体感を持ち、利用者を支援しています。利用者の平均年齢は89.7歳、平均介護度3.0です。重要事項説明書に「月に2回以上の外泊か、外出や面会」を奨励し、最後の看取りまで家族とともに利用者を支える姿勢を明確にしています。コロナ禍で中断していた地域交流も再開され、夏まつりには城陽市江州音頭愛好会の来所や、幼稚園児を招いての運動会、ボランティアとのもちつき大会、初詣や左義長に参加するなど、地域の一員としての生活を取り戻しつつあります。現管理者は、令和4年6月に昇進されました。「コミュニケーションを大切にして、ケアの統一を図るとともに、職員が楽しく仕事ができる職場を目指しています。」と述べています。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて理念・モットーを唱和し、共有するように努めている。また職員には研修等で共有するように努めている	職員は法人理念の基、月間目標を掲げ、全体会議で振り返りながら、毎月の目標達成に努めている。特に、利用者への声かけやケアの方法については、グループホーム会議で随時話し合っている。毎年4月には、理事長から理念についての話がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	駐車場の地域に向けた掲示板で事業所の行事や広報誌を掲示して地域の方に知って頂ける機会を設けている。自治会に加入し、地域のゴミ収集場所を提供、地域活動に積極的に参加している。	玄関前は常に季節の花々が咲いている。コロナ禍で多くの地域交流事業が中止のなか、城陽市「花植え事業」は継続して参加し、地域ボランティア数人と利用者で、花を植えて育てている。また、京大の看護学生実習生受入も継続実施している。新型コロナが5類になり、地域交流を徐々に再開している。地域の方にも参加を呼びかけた花火大会や、幼稚園児を招いての運動会、ボランティアの協力を得てのもちつき大会、初詣や左義長に参加し、夏まつりには城陽市江州音頭愛好会の来所があり、元職員のオカリナ演奏会なども楽しんでいる。城陽市認知症カフェ委託事業である「みんなのカフェ水度坂」も開催され、職員たちが講師を務め、相談や認知症の啓発活動をおこなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みんなのカフェを開催して地域貢献と理解向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の出席者は城陽市高齢介護課・民生児童委員・地域包括センター・友愛の介護部長・寺田センター長・管理者。入居者の状況や行事予定、事故報告などを課題として2ヶ月毎に開催しています。	会議メンバーは、民生児童委員、内科医、社会福祉協議会職員（市会議員）、市職員、地域包括支援センター職員である。以前は家族の参加があったが、現在は出席がない。利用者の状況や行事、避難訓練、研修、事故報告がある。事故は行政に報告する症例である。メンバーから、地域情報を得ているが、事業所のサービス内容に対して意見や助言が少ない。職員への伝達は、全体会議やミーティング時に報告している。家族に会議への案内や、議事録の送付を、おこなっていない。	会議では、事業所の提供するサービスに対して、活発な意見交換や助言を得ることが望まれます。特に事故報告やヒヤリ・ハットは、全容の報告を期待します。メンバーとの意見交換や助言は、発言者名と内容を記録に残すこと、家族には会議への案内と議事録の送付をおこなうことを望みます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席者の方からの報告や当ホームの実績と取り組み等を報告している。地域密着連絡会議に出席して情報の共有を行い、困り事があれば連絡し相談している。	運営推進会議に市職員の参加を得ており、日頃から協力関係を樹立している。城陽市の地域密着連絡会議や地域ケア会議、地域ケアマネジャー会議に参加して、情報交換をおこない協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については年1回研修を行い、正しい理解に努めています。また身体拘束虐待委員会を設置し、身体拘束虐待委員会も行っていきます。	「身体拘束虐待予防委員会」を、寺田ケアセンターとして毎月開催している。管理者が出席し、議事内容は連絡帳に記入し、グループホーム会議で伝え、検討もおこなっている。検討した内容が、グループホーム会議ノートでは確認できず、記録に残して積み重ねることなどができていない。ベッドからの転落予防のため、センサーを設置している方がいる。職員は利用者との関わりで、身体観察をおこない状況に合わせた声かけができるように務めている。以前は感情的な声かけがあり注意していたが、現在は改善している。玄関は人の出入りでチャイムがなる。利用者の行動は、寺田ケアセンター全職員で見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施し、正しい理解をするように努めています。また身体拘束虐待委員会にて検討会議も行っていきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を実施して日々権利擁護についての理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を用いて十分な説明を行い、理解頂いた上で締結している。また、解約・改定についても丁寧な説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から面会の際に意見や要望を聞き、聞いた意見はグループホーム会議で報告を行い、連絡ノートに記入することで職員間での共有も出来るようにしている。	コロナ禍で家族会が解散している。アンケート調査を年1回おこなっているが、苦情や意見はなく、感謝の言葉が多い。また、面会時やサービス担当者会議でも諸要望を聞き取っている。「本人のできることはさせてください」との要望は、利用者ができることを個々に挙げ、介護計画にも反映させている。洗濯物たたみは全員ができる。必要なことは申し送りノートに記録しており、休み明け勤務者はこれを読み勤務についている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で職員からの意見や提案を聞いており、グループホーム会議やセンター会議等で意見を反映させるようにしている。職員には各自目標を設定し、それに沿って年2回の管理者とのヒアリングを行っている。	管理者が職員の意見を聞く機会は、グループホーム会議、センター会議(寺田ケアセンター全員)、個人面談(年2回、目標シート提出)と、日常的にもある。グループホーム会議では、業務(早出、日勤、遅出)の見直しをおこなった。また、利用者への声かけ、コミュニケーションの取り方などを話し合っている。ミキサーやウオッシュレットの更新に対応している。水道の水漏れの指摘があり、センター長が止め方を指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員各自の勤務状況や実績を把握し、センター長への報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修については毎月施設内研修を行い、キャリアに応じて施設内外の研修参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会議に参加して、同業者とのネットワーク作りや勉強会においてケアの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たり、ご本人及びご家族様への面談を行い、本人の状況・要望等を聞き書式にて記録することで安心できる関係を構築している。使い慣れた物をお持ち頂くなど住み慣れた環境に近い状態で生活が出来るようサポートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たっての面談にて、ご家族の思いや不安について十分な聞き取りを行い信頼関係作りに努めている。また、いつでも相談できる体制作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りした状態・要望等を基に、初期においてご本人・ご家族が今必要としている支援を考えている。当事業所だけでなく他のサービス利用も総合的に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳や洗濯物たたみ等、出来る事はして頂き、事業所の理念である家庭的な雰囲気の中で共に暮らしている人生の先輩として尊敬の念を持って関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣替えや面会・外出・外泊などの声掛けを行い、当事業所の理念である家族との絆を大切にし、共に支援していく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の進行を遅らせる視点からも、馴染みの人や場所・物等の関わりをご家族様と重視している。ご家族だけでなく、知人の方との面会も行っている。	事業所では、重要事項説明書の中で「月2回以上連れ帰り、外泊または面会（一部抜粋）」を入居条件として、お盆や正月を一緒に過ごすなども奨励している。コロナ禍でも親しい友人や兄弟姉妹の面会（窓越し）があった。現在は面会、外出ともに自由である。家族と初詣に行く方、行きつけの美容院に行く方、外出や外泊する方など、それぞれある。姪御さん（美容師）の来所で髪を整える方もいる。利用者の趣味（歌をうたう、習字、毎月のカレンダーのぬり絵など）は、レクリエーションで継続している。毎朝、新聞を読む方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中、共有スペースでの食事・レクリエーション・テレビ鑑賞等、1日の大半を共有スペースで共に過ごされ、利用者同士が関わる時間を多く取れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。ボランティアとして介護の現場を支えてくれるご家族様もおられる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が入居者の意向を把握し、ケアプランに反映している。普段の会話や様子から思いを汲み取り、職員間で検討している。	利用者から聞き取った意向は、個人記録に記載している。モニタリング時にも聞き取っている。職員は休日明けには、記録を読むことを習慣化しており、情報は共有している。言葉でのコミュニケーションが困難な方がおられ、表情や目の動きでも理解しながら、家族の意見も聞き対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議や面会時などにご家族様から情報を得る様に努めている。得られた情報は記録に残し、他スタッフと情報を共有し、統一したケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「一般状態記録」「個人記録」「ケース記録」に記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議でのご家族様との話し合いと、ミーティングで話し合い計画に反映している。日々の申し送りでも困難事例があれば話し合っている。ケアプランの実施状態をチェックシートで毎日チェックし、ケアプランの見直しに活かしている。	入居時に作成した介護計画は、2週間後に見直しその後、3か月ごとのアセスメントシートの見直しとモニタリング、6か月ごとに介護計画見直しをしている。サービス担当者会議（家族、介護支援専門員、看護師、管理者参加）も6月、12月で開催している。具体的なサービス提供は「ケアプラン実施点検表」で毎日チェックしている。介護の課題は利用者や家族の希望を重視して掲げているが、1つの課題に目標が複数個あり、課題が目標の根拠として希薄なものもある。	介護計画で利用者、家族の希望を挙げることは重要なことです。それに加え、アセスメントシートでの状態把握で、自立に向けて介護支援しなければならぬ諸課題を把握されています。このアセスメントシートを生かし、抽出した課題で目標の根拠を明確にして、サービス内容を検討されることも期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「一般状態記録」「個人記録」「ケース記録」に記入し、職員間で情報を共有。実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組み、本人や家族の状況を把握。その時々にも生まれるニーズに対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診日は事業所の担当医と相談・確認し、ご家族の希望を大切に納得の得られた適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に利用者、家族の希望を聞き、事業所でのかかりつけ医を選択している。現在は全員が、協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。診察時には看護師と介護士が付き添い、体調や日常生活について報告している。急な体調不良時には、24時間のオンコール体制があり、往診や薬の処方などの指示を受けている。希望者には歯科医の往診があり、歯科衛生士が月2回口腔ケアに訪れている。その他の医療機関への受診は家族が同行し、介護タクシーを呼んで家族に情報提供書を託している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の情報を看護・訪問看護に伝えて適切な受診や看護を受けることが出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、治療及び早期に退院できるようご家族様・病院関係者と情報交換。また退院時のカンファレンスを行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に入った場合はご家族様とターミナルケアについての会議を開き、看取り等の事業所で行える支援についての説明を実施している。	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成している。今年度は外部講師を招き看取り研修をおこなった。新人職員にも入職時に話をしている。法人理念に「～尊厳ある生活を最期の看取りまで支援します」と表明し「グループホームでの状態悪化時の対応」を定めている。家族との絆を温められることを目標とし、日頃からの家族とのかかわりや声かけ方法、家族の宿泊準備に至るまで詳細な内容がある。看取り後は家族と職員でお別れ会をおこない、利用者もお別れができるよう支援している。ビールの好きな方に息子さんが飲ませてあげ、2～3日後に亡くなられたケースがある。息子さんは今でも、ボランティアとして関わりがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてマニュアルを常に確認するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを身につけると共に、地域の消防団の方の防災訓練及び研修を行い、非常時に対応出来るよう努めている。	火災の避難訓練は運営推進会議の日に設定し、会議メンバーの参加がある。消防署立会いの下、昼夜想定で年2回おこない、地域の方にもチラシでお知らせしている。訓練時、利用者は玄関外まで避難している。水害は特に注意を要する地域であり、城陽市危機防災対策課の方に来てもらい「水害防災研修」をおこなった。訓練では利用者を車で本部まで避難している。BCP(事業継続計画)は作成中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるご利用者様の人権・人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	年間研修の個人情報保護のほか、介護ケアの中でプライバシーを含めて研修をおこなっている。年度初頭には理事長からの話もある。日常の支援では、入浴時の同性介助を希望される方へ対応し、脱衣室でタオルを掛けるなど、羞恥心に配慮している。トイレのドアも閉めるようにし、職員の対応が気になるときは、管理者が直接指導している。「プライバシー保護マニュアル」は作成していない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	普段から利用者様が思いや希望を言いやすい良好な人間関係を作り、自己決定へ導けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が多忙でも、要望があれば一対一で散歩に出かけたり、とことんお話をする等での人らしい1日が過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	上下見合った服を着て頂いている。また洗面台にくしを常設することでいつでも誰でも使って頂けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、苦手なものについては極力出さないようにしている。また片付け等、出来る事に関してはお手伝いをして頂いている。	昼食と夕食は事業所の厨房で作り、月1回管理栄養士がカロリー計算や献立を作成している。ご飯はフロアのキッチンで炊いている。朝食は冷蔵庫の中を見て当直の職員が調理し、雑炊とパンを交互に提供している。日曜日はプリンやケーキなどの、おやつレクリエーションもおこなっている。庭で焼き芋をするときは、利用者が新聞紙で芋を包んでいる。ボランティアの協力を得て、餅つきも楽しんだ。裏庭にある友愛農園では、野菜だけでなくアケビやキウイ、栗、柿、レモンも収穫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量・好みの水分量を把握した食事形態で提供している。また毎回食事量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにてうがい・歯磨きを行い清潔保持に努めている。ご本人が出来ない箇所については介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、ひとりひとりの排泄サイクルを把握。必要に応じて声掛けをし、トイレでの排泄を促している。	紙媒体の排泄表を利用して確認しやすくしている。食事の前や個人に合わせ声かけをして、トイレ誘導している。夜間も声をかけて誘導しているが、紙おむつ使用の方は夜用の大きいパットを併用し、睡眠を優先している。ポータブルトイレの利用者はいない。以前、下着を自分で取り除いていた方も、職員の誘導や見守りで、現在は落ち着かれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況は常にチェックし、朝食時のヨーグルト提供・個々に応じた飲料や食品の提供、便秘予防体操の実施、主治医指導の元で服薬を看護職員との連携で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯を決め、体調や心の状態次第により対応している。	入浴は週3回、併設した小規模多機能の浴室を利用して午前中に入っている。脱衣室には椅子だけでなく銭湯のように長椅子が用意され、広い浴室は入り口と出口を決めて、安全に順次移動できるようにしている。湯はオーバーフローで使用し、ゆず湯や庭で取れたドクダミも乾燥させて使用している。入浴拒否の方に、人や時間を変えて声かけしていたが、現在拒否する方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりのペースで生活して頂きながらも夜間の良眠に繋げられるよう日中は活動的に過ごせるように支援を行っている。また、安心して気持ちよく眠れるようリネンを整え清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で発行されている薬リストにて効果・効能について都度確認出来るようになっている。主治医・看護職員・訪問看護と連携を図り申し送り等で情報共有を行い、体調観察・確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事を開催しており、ひとりひとりが活躍できるような支援を行うことで気分転換に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍によって外出・外泊支援が行えていない為、少しでも気分転換を図れるよう施設内での行事や体操、ウォーキングやレクリエーションに参加して頂いている。また参加して頂くことで筋力低下防止に努めている。	コロナ禍では、外出が全面的に禁止され、買い物やドライブにも行けなかった。今も、外出の機会は減少している。午前中は併設の小規模多機能で過ごすことで、気分転換と日常生活に刺激を得ている。階段を使用するため、機能訓練にもなっている。また、機能訓練として階段を利用すると、シールをためることができる。	敷地は広く、花や野菜もたくさん育てておられます。ちょっとした空き時間に駐車場や裏庭に出かけられてはいいでしょうか。家族が面会に来られた時に散歩に出て、一緒に過ごす時間を持たれることもお勧めします。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として職員が管理しているが、本人の希望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられ、個人に合わせた柔軟な対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共用空間保持のため、エアコン・加湿器等を設置。温度計・湿度計を確認し調節を行っている。また居室にはご家族との写真を貼り、共用スペースには季節に合わせた飾り付けを行っている。	敷地内はプランターに花が咲き、桜の木も見事で、春には桜を見ながらの食事が開催される。フロアは2階にあり、階段の見守りのため、出入り口にセンサーチャイムをつけている。壁には利用者の写真やかわいい犬猫のポスター、職員のアイディアで幼児（女の子）の衣服の展示もあり、季節の飾りもある。ソファが2台と、椅子が壁に配置したテレビを囲んで並べられ、利用者はお気に入りの場所に座ってくつろいでいる。環境整備の職員の雇用があり、フロアは掃除が行き届き清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの空間で快適に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活で使っていたもの等、慣れ親しんだものをお持ち頂き、使用されている。ご本人が希望された設備が使用できるよう支援している。	居室の入り口には木製のネームプレートがかけてある。エアコン、ベッドが備え付けられ、タンスなどケアマネジャーと相談して、気に入ったものを設置している。寝具は自分の物を持参しており、リネンの洗濯は、環境整備の職員が毎週している。壁にはカレンダーや折り紙、職員から毎年贈られるお誕生日カードが貼られ、カードには職員からの感謝の言葉が添えられている。ぬいぐるみなどお気に入りも飾っている。午前中、窓は全開で換気し、環境整備の職員が毎日掃除をしている。	

京都府 グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表記を分かりやすいように工夫し、職員が誘導する際は不安の無いように声掛けを行うことで安全に暮らせるように支援している。		